

共同研究先およびサービス検討イメージ

1 共同研究先

会社名	会社概要	検証内容
Bidgely	<ul style="list-style-type: none"> ○設立 2011年 ○取引先 RWE、e.on など ○会社概要 一般家庭におけるエネルギー消費のあり方を変えることと、低コストの技術確立を理念とし、様々な角度からエネルギー問題の解決に取り組むベンチャー企業 	スマートメーターから取得する電気使用量と天候などのデータを組み合わせてAI分析することで、確度の高いディスアグリゲーション（全体の電気使用量から家電ごとの電気使用量内訳の推定）を行う技術を保有している。この技術を活用し、日本の一般家庭における家電の使い方や生活スタイルごとの分析が可能か検証する。
ABEJA	<ul style="list-style-type: none"> ○設立 2012年 ○取引先 ダイキン工業(株)、(株)三越伊勢丹ホールディングス、(株)ゲオなど ○会社概要 蓄積されたビッグデータから、人間の手を介さずに、そのデータを適切に表現する特徴を自動的に見つけ出す「ディープラーニング」を活用した独自の解析プラットフォーム^{※1}「ABEJA Platform」の提供を通し、多様な業界、シーンにおけるビジネスの効率化・自動化を促進するベンチャー企業 	データサイエンティスト ^{※2} により、家族構成等の属性データと部屋ごとの電気使用量を教師データ ^{※3} とするAIアルゴリズム ^{※4} を構築することが可能。こうしてカスタマイズしたAIにより、スマートメーターから取得する30分毎の電気使用量で使用家電等の推定を行うことが可能か検証する。

※1：ソフトウェアやハードウェア、サービスを動かすための基盤となる環境

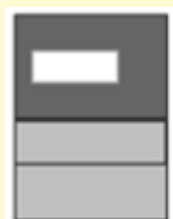
※2：統計学、コンピュータサイエンス、データ分析を駆使し、膨大なデータを目的に活用できる情報に構造化・整理する専門家

※3：AI（人工知能）が物事を判断するための基礎となる事前に与えられる学習データ

※4：問題を解くための手順を定式化した形で表現したもの

2 電気使用量のAI分析を活用したサービス検討イメージ

①スマートメーターで30分毎の電気使用量を確認



②30分毎の電気使用量をAIで分析し、各家電の使用状況を把握



③よりお客さまに合った省エネ方法のご提供サービスや家族見守りサービス、その他新たなサービスを検討

